

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01279

研究課題名(和文) 言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析

研究課題名(英文) Contrastive interlanguage analysis of French, Japanese and Turkish based on language variation

研究代表者

川口 裕司 (Kawaguchi, Yuji)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：20204703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、対照中間言語分析の手法を用いて、母語話者データと学習者言語データを対照分析した。音声レベルでは単音の発音特徴、語アクセント配置、流暢性について学習者の言語特徴が分析され、形態・語彙レベルでは、過去時制の使い分け、特徴的な語彙、語彙知識、談話標識について研究が行われた。各研究は6回の研究会で報告され、国内外の研究誌で論文として出版された。科研期間に国内および海外から研究者を招き、12回の講演を実施した。2022-23年度にかけて4回の国際ワークショップを開催し、若手研究者に発表の機会を提供するとともに、海外研究機関との共同研究について面談を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国では、英語・日本語に関する学習者言語の研究は盛んであるが、本科研費プロジェクトが扱うフランス語やトルコ語については、まだまだ欧米の研究に遅れを取っている。本プロジェクトは、そうした状況に風穴を開けるとともに、従来あまり行われてこなかった、言語変異を分析するための多言語に適用可能な調査プロトコルを採用しつつ対照中間言語分析を行った。このことには学術的意義があると考えられる。本研究をさらに精緻化することによって、日本語を母語とする学習者に特徴的な言語特徴を明らかにすることができ、その研究成果を言語教材や教育手法に応用・還元することは、重要な社会的意義があると言える。

研究成果の概要(英文)：In this research project, native speaker data and learner language data were contrasted and analyzed using the method of Contrastive Interlanguage Analysis (CIA). At the phonetic level, learners' language features were analyzed in terms of segmental features, accentuation and fluency. At the morphological and lexical levels, studies were conducted on past tense usage, characteristic vocabulary, lexical knowledge and some discourse markers. Each study was reported in six research meetings and published as articles in research journals. During the Grant-in-Aid period, researchers from Japan and abroad were invited to give twelve different lectures. Four international workshops were held during FY2022-23 to provide young researchers with opportunities to present their research and to meet with foreign research institutions about joint research.

研究分野：フランス語学、フランス語教育、トルコ語学、言語学

キーワード：学習者コーパス 話しことばコーパス 対照中間言語分析

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトは川口が長期間にわたって構築してきたフランス語とトルコ語の話しことばコーパスと学習者コーパスと、それに関連する諸研究に基づいている。出発点は、Global COE プログラムと 2006-2010 年度に採択された基盤研究 A「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスの構築に基づく言語運用の研究と教育への応用」であった(同科研費の研究成果は <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=171> を参照)。一連の研究によって以下の話しことばコーパスが構築された。

対象言語	実施機関	トークン数
フランス語	パリ第3大学、エクスマルセイユ大学等	約200万トークン
トルコ語	マルマラ大学、イスタンブール大学等	約100万トークン

トルコ語のトークン数は、空白によって区切られた部分の数。

両コーパスの規模は、ヨーロッパやアメリカ等における話しことばコーパスに肩を並べる規模となった。その後も科学研究費補助金(基盤研究 B)により、以下のフランス語とトルコ語の学習者言語コーパスが構築された。

対象言語	実施機関	語数
フランス語	東京外国語大学、早稲田大学、西南学院大学、名古屋外国語大学、福岡大学	約20万トークン
トルコ語	東京外国語大学、大阪大学	約2万7千トークン

2. 研究の目的

本研究では、2016-19年度の基盤研究 B「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」(=先行科研 B)の調査方法に改良を加えつつ、先行科研 Bにおいて十分な研究成果の得られたフランス語、日本語、トルコ語を対象にして、より多くの言語データを用いて、母語話者と学習者の複雑な言語変異の連関性を質的・量的に研究する。

3. 研究の方法

本研究では、対照中間言語分析 Contrastive Interlanguage Analysis の手法を用いて、母語話者データと学習者言語データを対照分析した。学習者言語データは、「IPFC プロトコル」を土台とし、6つのタスク調査を設定して言語データを収集した。①反復：単語リスト(フランス語 94語、日本語 112語、トルコ語 70語)を聴いて反復する。②読み上げ：上記の単語リストと、学習者に困難が予想される単語リスト(フランス語 61語、日本語 35語、トルコ語 50語)を読み上げる。③テキスト朗読：A 4程度の短いテキストを読み上げる。④インタビュー：母語話者が12の質問を行い、学習者がそれに答える。⑤自由談話：学習者2名が自由に話題を設定して、15分程度話し合う。⑥作文：あるテーマについて200語程度の短い作文を書く。研究の4年間の流れを図式化すると下図のようになる。

2019~2022 年度	2022~2023 年度
マルチタスク調査の実施 (特に自由談話/作文を中心に)	4回の国際ワークショップ開催
母語話者言語データと学習者言語データの対照分析(音声・形態・語彙レベル) 6回の研究会と12回の講演を実施	

フランス語とトルコ語に関しては、先行科研 B でかなり多くの研究成果が得られたと考えられるため、反復・音読タスクを除き、自由談話と作文タスクを中心にデータ収集と分析が進められた。日本語に関しては、利用可能な母語話者と学習者の言語データが既にあるため、それらをあわせた研究が行われた。

タスク調査によって得られた言語データは、右図の Web ページ（日本語と英語のインターフェイス）から利用できる。言語データへのアクセスは制限されており、データは匿名化されている。



<http://www.coelang.tufs.ac.jp/interlang/>

4. 研究成果

本プロジェクトが始まる前年の 2009 年度に、『フランコフォンの世界 コーパスが明かすフランス語の多様性』、川口裕司、矢頭典枝、秋廣尚恵、杉山香織編訳、三省堂（右図）が出版された。これによって本プロジェクトの方向性が明確化したと言える。同書は本研究の親プロジェクトと言うべき、PFC プロジェクトを概観した著作 *Variétés du français parlé dans l'espace francophone*、S. Detev, I. Durand, B. Laks, C. Lyche, Ophrvs, 2010 を日本人読者のために翻案した書籍である。川口はまた、日本語とトルコ語の語彙を比較対照し、『デイリー日本語・トルコ語・英語辞典』、三省堂、2020 年を出版した（右図）。



当初の計画では、学習者言語データを母語話者データと対照分析し、①音声・韻律特徴、②語彙の特徴、③談話標識について分析を行う予定であった。以下に成果について述べる。

フランス語学習者コーパス班は、分担者が多く、複数の領域にわたる研究を行うことができた。まず音声・音韻レベルについては、Detev が日本語を母語とするフランス語学習者の音声的流暢さを経年的に研究し、成果を *Speech Communication* 125 (2020) に発表した。川口は院生協力者とともに 50 名の日本人学習者の発音特徴に関して、『外国語教育研究』25(2022)に論文を発表した。近藤は、フランス語教科書への地域変種の反映について、論考を『ふらんぼー』49 (2023) に発表した。形態・語彙レベルでは、川口が研究協力者とともに、日本語を母語とするフランス語学習者の過去時制の使い分けを分析し、結果を *Flambeau* 46 (2021) に公刊した。また研究協力者とともに、日本語を母語とする学習者に特徴的な語彙について、『外国語教育研究』25(2022)に論文を発表した。杉山はリーディングでの語彙知識の予測モデルに関する研究を行い、成果を『外国語教育研究』23 (2020) と同 24 (2021) に発表した。秋廣は、談話レベルにみられる談話標識、日本語の *ato* とフランス語の *après* について、研究成果を *Langages* 220 (2020) に発表した。さらに談話標識 *du coup* の用法の広がりについて、『フランス語学研究』55 (2021) に論考を発表した。川口は協力者とともに、日本人学習者が過少使用する動詞について、『外国語教育研究』26 (2023) に論考を発表した。

日本語学習者コーパス班は、阿部と川口が研究協力者とともに、L2 日本語の語アクセント産出について、トルコ語母語話者とフランス語母語話者の言語データを詳細に分析した。いずれの分析についても研究会で報告を行った。後者のフランス語を母語とする学習者については、研究結果を『外国語教育研究』25 (2022) に論文として発表した。また、最終の 2023 年度に国際ワークショップを開催し、台湾政治大学日本語科との共同研究に向けた話し合いを行った。

トルコ語学習者コーパス班は、分担者が少ないため、以下の研究成果に終わった。まず 4 年間を通じて、日本語を母語とする学習者言語データの収集を続けた。川口は、フランス語を母語とするトルコ語学習者の発音特徴を調査し、*Flambeau* 48 (2023) に英文論文を掲載した。さらに 2023 年度に国際ワークショップを開催し、台湾政治大学トルコ語科との共同研究に向けた話し合いを行い、談話標識について共同研究を開始した。

コーパス言語班は、石川が『ベーシックコーパス言語学』、第 2 版、ひつじ書房、2021 年を出版し、本科研の複数の研究において統計処理のサポートを行った。変異研究としては、川口がフランス語方言の標準化と距離の関係性について *Methods* XVI(2020)に論文を出版し、院生協力者とともに、フランス語圏の話しことばにおいて使用される談話標識の変異を分析し、*Flambeau* 49 (2024) に英文論文を発表した。矢頭は、英語の変種に関して『あなたの知らない世界の英語』、アルク、2020 年を出版した。梅野は、学習者コーパス管理ページのインターフェイスを日本語・英語にし、今後、海外協力者も利用可能なようにした。

【研究会および研究協力者による講演・国際ワークショップ】

各年度に海外から研究者を招聘し、講演会およびワークショップを開催した。

2020 年度	<p>コロナ感染症のため ZOOM オンライン開催となった。</p> <p>[講演 1] 6 月 29 日、19 世紀末における代名詞 il、ils の発音—Paul Passy による Le Français parlé に基づく分析—、近藤野里（名古屋外国語大学）</p> <p>[講演 2] Caractéristiques de la langue parlée、Jeanne-Marie DEBAISIEUX (Univerité Sorbonne Nouvelle)</p> <p>[講演 3] 7 月 6 日、Connaissance lexicale pour la compréhension de textes chez les apprenants japonais Le français de niveau débutant et intermédiaire、杉山香織（西南学院大学）</p> <p>[講演 4] 10 月 19 日、Occlusives en anglais et français (et dans d'autres langues) : voisement et aspiration。神山剛樹（パリ第 8 大学）</p>
2021 年度	<p>[研究会 1] 7 月 25 日、ZOOM 会議 第 1 回研究会 学習者コーパス分析 I : 発音特徴と談話標識、講演と研究報告 5 件</p> <p>[講演 5] 学習者コーパスデータを用いた中間言語対照分析：可能性と課題、石川慎一郎(神戸大学)</p> <p>[研究会 2] 12 月 19 日、ZOOM 会議 第 2 回研究会 学習者コーパス分析 II : 音声認識から談話標識まで、講演と研究報告 5 件</p> <p>[講演 6] 中間言語の視点からみる TUFSS-KANDA 英語モジュール「アジア英語版」の特殊性、矢頭典枝(神田外語大学)</p> <p>[研究会 3] 2 月 21 日、ZOOM 会議 第 3 回研究会 学習者コーパス分析 III : 発音特徴と語彙頻度、講演と研究報告 3 件</p> <p>[講演 7] フランス語教科書における発音：規範と使用、近藤野里(青山学院大学)</p>
2022 年度	<p>[研究会 4] 9 月 8 日、ZOOM 会議 第 1 回研究会 学習者コーパス分析 I : 発音特徴と談話標識、講演と研究報告 5 件</p> <p>[講演 8] 日本語学概説書の翻訳から見える日本語学とフランス言語学の接点、中村弥生(INALCO)</p> <p>[研究会 5] 1 月 25 日、ZOOM 会議 第 2 回研究会 学習者コーパス分析 II 言語変異を基盤とするフランス語の対照中間言語分析</p> <p>[講演 9] 2 月 13 日、講演 フランス語コーパスを使ったデータマイニング入門 - spacy-stanza を使った形態素解析、杉山香織（西南学院大学）</p> <p>[国際ワークショップ 1] 3 月 15 日、Journée d'études sur la variation linguistique du français contemporain、仏語による研究報告 4 件</p> <p>[講演 10] 16 日、講演 Présentation des nouveaux outils pour la cartographie des atlas linguistiques français (Thesaurus occitan et ShinyDialect) Guylaine Brun-Trigaud (CNRS, France)</p> <p>[国際ワークショップ 2] 3 月 20 日、Atelier d'études sur les dialectes romans 仏語による研究報告 4 件</p>

2023 年度	<p>[研究会 6] 8 月 20 日、第 1 回研究会 カナダ・フランス語の諸相</p> <p>[国際ワークショップ 3] 12 月 14 日、Analyse du corpus interlangue et dialecte du francais</p> <p>[講演 11] La francophonie: histoire, réalités et débats actuels, Jean-Louis Chiss (La Sorbonne Nouvelle)</p> <p>[国際ワークショップ 4] 1 月 24 日、国際ワークショップ 国立台湾政治大学との共同研究に受けて一言語研究と学習者言語研究</p> <p>[講演 12] 2 月 16 日、講演 On the Plurality of Good Wish Expressions in Turkish, Mehmet UZMAN (Associate Professor, National Chengchi University)</p>
---------	--

詳細は <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=428> を参照。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Detey Sylvain, Fontan Lionel, Le Coz Maxime, Barcat Corentin, Kawaguchi Yuji	4. 巻 26
2. 論文標題 Identifying Segmental Substitutions in Spontaneous Speech of L-3 French / L1-Japanese Learners : A Corpus-based Pilot Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 124,134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤野里	4. 巻 49
2. 論文標題 フランス語教科書への地域変種の反映とその課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんぼー	6. 最初と最後の頁 61,76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Sugiyama	4. 巻 1
2. 論文標題 Analyse lexicale des verbes utilises a l'oral par les apprenants japonais du francais selon leur duree de sejour en pays francophone	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Quatrieme colloque international de l'ATPF	6. 最初と最後の頁 332,357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 時田朋子, バルカ・コランタン, 川口裕司	4. 巻 26
2. 論文標題 フランス語中・上級学習者が自由会話で過少使用する動詞：学習用共起表現リスト作成を目指して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 113,128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seimiya Takamasa, Okawara Kaho, Kawaguchi Yuji	4. 巻 49
2. 論文標題 Regional variation of discourse markers bon and ben Statistical analysis of 14 surveys in the PFC Corpus	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 77,91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤野里	4. 巻 48
2. 論文標題 日本語を母語とするフランス語学習者における言語変異の習得,	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ふらんばー	6. 最初と最後の頁 122,137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤玲子, 川口裕司	4. 巻 25
2. 論文標題 日本語を母語とするフランス語学習者50人の発音特徴 - [i]の前の[t]、[s]、[sh]の発音について -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 130,148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 布村猛, 阿部新, 川口裕司	4. 巻 25
2. 論文標題 アクセントの産出に影響を与える要因はどのように共起するか フランス語を母語とする日本語学習者の場合	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 20,37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 48
2. 論文標題 Notes on the Use of the Turkish Phoneme /r/ by French-speaking Learners	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 52,65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋廣尚恵	4. 巻 55
2. 論文標題 会話における du coup の用法の広がり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フランス語学研究	6. 最初と最後の頁 67,74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺田雄輝, 杉山香織	4. 巻 24
2. 論文標題 日本人フランス語学習者の音読における流暢さの測定 -時間的尺度の観点から-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 23,41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山香織	4. 巻 24
2. 論文標題 受容語彙知識に基づく読解得点予測の可能性 - A2レベルのフランス語学習者を対象に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 42,60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口裕司, 伊藤玲子, 清宮貴雅, 大河原香穂	4. 巻 1
2. 論文標題 研究動向 フランス地理言語学と言語地図: 誕生から現状まで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理言語学研究	6. 最初と最後の頁 146, 163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisae Akihiro	4. 巻 220
2. 論文標題 L'emploi discursif de apres, etude contrastive avec ato en japonais. Extension contextuelle et pragmaticalisation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Langages	6. 最初と最後の頁 65, 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Detey Sylvain, Fontan L., Le Coz, M., Jmel, S	4. 巻 125
2. 論文標題 Computer-assisted assessment of phonetic fluency in a second language: a longitudinal study of Japanese learners of French	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Speech Communication	6. 最初と最後の頁 69, 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 杉山香織	4. 巻 23
2. 論文標題 リーディングにおける語彙知識の予測モデルとその検証ーフランス語圏への留学経験による語彙知識の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 20, 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Kawaguchi	4. 巻 1
2. 論文標題 Standardization and distance -Case of Linguistic Atlas of Champagne and Brie (ALCB)-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI, Papers from the sixteenth international conference on Methods in Dialectology	6. 最初と最後の頁 269, 276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3726/b17102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mito Matsuzawa, Yuji Kawaguchi	4. 巻 46
2. 論文標題 Passe compose and imparfait in Japanese learners of French - With particular consideration of the aspect hypothesis -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 61, 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 溝上耀史, 杉山香織
2. 発表標題 A2レベルのリーディングに出現する動詞の多角的分析: 時制、人称、法に着目して
3. 学会等名 外国語教育学会第27回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sugiyama Kaori
2. 発表標題 Approches de recherches sur la production orale des apprenants du francais a l'ere du numerique
3. 学会等名 5e congres de la commission Asie-Pacifique de la FIPF et 18e seminaire regional de recherche francophone (CREFAP-01F) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 La diversite des emplois du mot /limite/ observee dans l'oral informel en francais
3. 学会等名 日本フランス語学会シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 ケベック州で出版されたフランス語教科書に見られるケベック・フランス語の語彙について
3. 学会等名 日本ケベック学会2022年度全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 Japonca ve Turkce Japonca'nin nitelikleri
3. 学会等名 Erasmus+, Marmara Universitesi (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 時田朋子, バルカ・コランタン, 川口裕司
2. 発表標題 フランス語中・上級学習者が自由会話タスクで使用する動詞：ネイティブスピーカーの話し言葉コーパスとの比較
3. 学会等名 外国語教育学会第26回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takamasa Seimiya, Kaho Okawara, Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 Une etude synchronique des marqueurs discursifs bon et ben- donnees provenant de 14 enquetes du corpus PFC
3. 学会等名 Colloque (I)PFC (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 布村 猛, 阿部 新, 川口 裕司
2. 発表標題 L2日本語における単語アクセント産出の多様性にまつわる検討 日本語学習者音声中間言語コーパスを用いた分析
3. 学会等名 外国語教育学会第25回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 縦断的な発話データを用いたフランス語学習者によるリエゾンの習得の分析
3. 学会等名 外国語教育学会第25回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山香織, 大山大樹, 茂木良治, 姫田麻利子
2. 発表標題 教室の再発見：知識の伝達または共同構築の空間としての教室とWeb会議室
3. 学会等名 日本フランス語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語 A2 レベルの読解得点と語彙知識との関係
3. 学会等名 外国語教育学会第25回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢頭典枝
2. 発表標題 ケベック・フランス語の包括書法：職業名詞等の女性形化と通性的な書き方
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤玲子, 川口裕司
2. 発表標題 日本語を母語とするフランス語学習者50人の発音特徴
3. 学会等名 外国語教育学会第25回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 バルカ・コランタン, 川口裕司, ドウテ・シルヴァン
2. 発表標題 日本人フランス語学習者の話し言葉の分析：頻度の高い語彙とコロケーション
3. 学会等名 外国語教育学会第25回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梅野毅
2. 発表標題 AIによるトルコ語のテキスト読み上げと自由会話の音声認識 トルコ語母語話者と日本語母語話者の場合
3. 学会等名 言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析 科研B第二回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部 新, 磯村一弘, 林 良子
2. 発表標題 世界各地の日本語音声指導の実態 2013年から2017年の調査データによる分析
3. 学会等名 日本音声学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 Du coupの用法について 論理的意味の非特定化と談話機能的意味の広がり
3. 学会等名 日本フランス語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Detey Sylvain
2. 発表標題 Teaching and language corpora: what of pronunciation? Insights from French
3. 学会等名 14th Teaching and Language Corpora conference (TaLC2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 リーディングにおける頻度情報を使用した未知語予測モデルの検証 - A2 レベルのフランス語学習者を対象に -
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松澤水戸, 川口裕司
2. 発表標題 フランス語中級学習者の自由談話における複合過去と半過去
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 矢頭典枝, 大石太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 ケベックを知るための56章	

1. 著者名 石川慎一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 277
3. 書名 ベーシックコーパス言語学 (第2版改訂版)	

1. 著者名 川口裕司, 伊藤玲子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 駿河台出版社	5. 総ページ数 168
3. 書名 仏検4級・5級準拠 頻度順フランス語単語集	

1. 著者名 石川慎一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 361
3. 書名 ベーシック応用言語学：L2の習得・処理・学習・教授・評価（第2版）	

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 246
3. 書名 The ICNALE Guide: An Introduction to a Learner Corpus Study on Asian Learners' L2	

1. 著者名 Detey Sylvain	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Armand Colin	5. 総ページ数 416
3. 書名 Savons-nous vraiment parler ? Du contrat linguistique comme contrat social	

1. 著者名 川口裕司, 神山剛樹, 関敦彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 駿河台出版社	5. 総ページ数 228
3. 書名 仏検準1級準拠 頻度順フランス語単語集	

1. 著者名 Detey Sylvain, Durand Jacques et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Boeck	5. 総ページ数 432
3. 書名 Introduction a l'acquisition des langues etrangeres	

1. 著者名 Chamot Mathilde, Racine Isabelle, Regan Vera, Detey Sylvain, Kondo Nori et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Narr Verlag	5. 総ページ数 747
3. 書名 La prononciation du francais langue etrangere : perspectives linguistiques et didactiques	

1. 著者名 川口裕司(監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 768
3. 書名 デイリー日本語・トルコ語・英語辞典	

1. 著者名 石川慎一郎, 長谷部陽一郎, 住吉誠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 273
3. 書名 コーパス研究の展望	

1. 著者名 石川慎一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 277
3. 書名 ベーシックコーパス言語学(第2版)	

1. 著者名 矢頭典枝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルク	5. 総ページ数 103
3. 書名 あなたの知らない世界の英語	

1. 著者名 飯野正子, 竹中豊, 矢頭典枝, 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 現代カナダを知るための60章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析
<https://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=428>
 フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析（アクセス制限有）
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/interlang/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 新 (Abe Shin) (00526270)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	Detey Sylvain (Detey Sylvain) (00548927)	早稲田大学・国際学術院・教授 (32689)	
研究分担者	矢頭 典枝 (Yazu Norie) (10512379)	関西学院大学・国際教育・協力センター・教授 (34504)	
研究分担者	梅野 毅 (Umeno Tsuyoshi) (10722340)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助手 (12603)	
研究分担者	秋廣 尚恵 (Akihiro Hisae) (60724862)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 野里 (Kondo Nori) (70759810)	青山学院大学・文学部・准教授 (32601)	
研究分担者	石川 慎一郎 (Ishikawa Shin'ichiro) (90320994)	神戸大学・大学教育推進機構・教授 (14501)	
研究分担者	杉山 香織 (Sugiyama Kaori) (00735970)	西南学院大学・外国語学部・教授 (37105)	
研究分担者	吉村 大樹 (Yoshimura Taiki) (80522771)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関